

社会福祉法人 熊本県視覚障がい者福祉協会
平成27年度 事業実績報告書

1, 熊本県点字図書館の受託経営（別紙報告書のとおり）

2, 熊本県障害者社会参加総合推進事業の受託実施

(1) ア 熊本県視覚障害者生活訓練事業A

一般教養講座をはじめ、職業訓練、体験講座、体力づくり講座。また、女性を中心とした、料理、生け花などを開催し、視覚障害者の社会生活を促進する内容で実施した。年々中途失明者の受講者が増えている。開催回数、24回。実受講者130名。延べ受講者234名。

イ 熊本県視覚障害者生活訓練事業B

県内在住の視覚障害者を対象に、カウンセリングを中心として、生活行動訓練を実施した。今年度は、コミュニケーション訓練として情報収集機器の相談等訓練が多かった。点字指導、歩行訓練、コミュニケーション訓練など開催回数は、66回。実施受講者27名。延べ実施時間140時間であった。

(2) 点訳・朗読（音訳）奉仕員ステップアップ事業

当会主催の点訳・朗読（音訳）奉仕員養成講座を修了された方を対象に専門技術の向上や、視覚障害者へのより一層の理解、協力を経るために点訳3回、音訳各5回、合同研修1回の計9回を実施した。年間参加人員は195名であった。

(3) 点字による情報ネットワーク事業

日盲連が発行する、点字JBニュースのダウン、印刷、閲覧、県内各地域の推進員、2施設へ毎日発送（17部）。

点字データのインターネット解放により、個人への情報の提供が常時可能となった。JBニュースネット配信者は23名。

3, 熊本市視覚障害者生活訓練事業の受託実施

(1) ア パソコン講座、一般教養講座、体験講座、職業訓練、料理、生け花、手芸などの講座を開催し実施した。開催回数41回。実受講者数62名、延べ受講者324名。

イ 市内在住の視覚障害者を対象に、カウンセリングを中心にして、生活行動訓練を実施した。点字指導、歩行訓練など新規受講の相談者が13名、実施受講者43名であった。開催回数は、団体訓練を含めて195回。延べ実施時間数356時間。

(2) 点訳朗読(音訳)奉仕員養成事業

視覚障害者の社会参加及び自立の促進に必要な意思疎通支援を行う点訳・朗読(音訳)奉仕員を養成した。今年度点訳者は当初11名、修了者は6名であった。朗読(音訳者)は、当初16名、修了者は、10名であった。

4. 点字版、録音版広報誌の製作、発送業務の受託、実施

(1) 熊本県より発行分の受託業務

「県からのたより」年6回、の委託を受け、印刷、発送に努めた。発送契約は、希望者点字版472部。録音版191部。

(2) 八代市広報誌(点字版)毎月1回発行、発送16部。

(3) 宇土市広報誌(音声版)毎月1回発行、発送6部。

(4) その他の点字資料の製作を受託、実施した。

① 熊本県・市行政資料(健康福祉部関係、人事委員関係、教育委員会関係、選挙関係)などの点字版製作を受託、実施した。

② その他、外部依頼による会議資料等の製作、印刷を行なった。

5. パソコンサポートサービスの実施

「パソコンボランティア熊本」の協力を得て支援体制を強化した。電話にて利用者の音声パソコン状況(トラブル)又は、機器・ソフト購入相談に対し、ボランティア派遣を行っているが、職員の対応や業者にて解決し、処理が多くなされた。

社会福祉法人 熊本県視覚障がい者福祉協会
平成27年度 熊本県点字図書館 事業実績報告書

熊本県における、視覚障がい者の情報提供施設としての点字図書館に期待されるものは大きく、その果たす役割も重要視されている。複雑多様化する情報社会のなかで、視覚障がい者の自立と、社会参加を促進する上で、重要且つ必要な情報の収集と提供を図った。また、利用者の読書環境の整備と録音再生機の説明会を開催し、文化と福祉の向上を図ることと最新情報機器支援を目的に、図書館活動をとおして下記の事業を今年度も実施した。点字図書では点字プリンターの保守契約を結び、印刷業務への安全尚且つスピーディーに提供できるように努めた。録音での情報提供がより多くの視覚障がい者に出来るように努め、プレクストークの修理及び給付申請の方には、当館所蔵のプレクストークを貸し出し対応した。

1. 蔵書の製作と充実に努めた。(別紙資料1, 2, 3参照)

| | | | | |
|----------|-----------|--------------|-----------|--------|
| (1) 点字図書 | 今年度 | 277タイトル | 900冊 | |
| | | (昨年度 292タイトル | 1,010冊) | が増加した。 |
| 内訳 | 厚生労働省委託図書 | 67タイトル | (昨年度 70) | |
| | 自館点訳図書 | 201タイトル | (昨年度 216) | |
| | 廃本 | 5タイトル | 14冊 | |
| 内訳 | 厚生労働省委託図書 | 5タイトル | 14冊 | |
| | 自館点訳図書 | | 無 | |

累計蔵書数は、9,001 (昨年度 8,724) タイトル
29,571 (昨年度 28,671) 冊である。

(2) 録音図書 (カセットテープ)

累計蔵書数は、8,684 (昨年度 8,684) タイトル、
48,884 (昨年度 48,884) 巻である。

(3) デイジー図書 (CD) の製作では、462タイトルが蔵書された。
(昨年度 437タイトル)

| | | | |
|----|--------|---------|-----------|
| 内訳 | 厚生労働省 | 63タイトル | (昨年度 63) |
| | 自館音訳図書 | 389タイトル | (昨年度 364) |
| | 寄贈図書 | 10タイトル | (昨年度 10) |
| | 購入図書 | 0タイトル | (昨年度 0) |

累計蔵書数は、7,422タイトル (昨年度 6,960) である。
点訳・録音増加図書の殆どが、点訳・音訳ボランティアの協力によっ

て製作、校正、編集されていることは感謝のほかありません。

(4) 点字雑誌については、季刊1種 らしんばん。

月刊情報雑誌 3種 (点字ジャーナル・ライフ&ライフ・信仰・)。

週刊雑誌1種 (点字毎日)。

(5) 録音雑誌については、月刊情報雑誌他、週刊雑誌、年間数回発行されるものを含めて9種の音声情報資料の収集を図り、利用者の要望に対応した。おもなものを挙げると、(やまゆり・ダンスファン・暮らしの手帖・週刊現代・医道の日本・九視情協、熊点最新新刊図書案内・ラジオ深夜便) などがある。

デジジー雑誌では、CD29種の貸出しがなされた。(にってんデジーマガジン・医道の日本・選択・フォーサイト・文芸春秋・毎日ライフ・NHKきょうの健康・爽快・週刊現代・趣味の園芸・俳壇・流・新潮・世界等)。雑誌の種類も増えている。

2. 貸出業務の拡大と充実を図った。(別紙資料4, 5, 6, 7参照)

(1) 点字図書の年間延べ貸し出し数は、60,572冊(昨年度69,498冊)8,926冊減。(サピエ図書館ダウンロード、コンテンツ利用含む。)

録音図書(カセットテープ)の年間延べ貸し出し数は、5,203巻(昨年度7,683巻)2,480巻減。

CD図書の延べ貸し出し数41,475枚(昨年度40,881枚)

594枚の増であった。(サピエ図書館ダウンロード、コンテンツ利用含む。)

CD図書は、録音図書総貸し出し数46,678(昨年度48,564)タイトルのうち41,475タイトルを占める。

(2) 熊本県立盲学校に、点字児童図書を長期に貸出し、児童生徒の利用の拡大を図っている。

(3) 全国相互貸借による貸出しを行なった。

具体的には、「サピエ図書館」の活用により検索、貸出しを実施した。

3. 閲覧状況(別資料6参照)

閲覧については、閲覧室が整備されて以来、利用者にとって、学習(読書、訓練など)、研修、憩いの場所として有意義に活用された。諸行事等の開催により閲覧者の増加を図っている。今年度は対面読書の利用が14名であった。

1年間の延べ閲覧者は次のとおりである。

点字 510人（昨年度 321人）189人の増

1,632冊（昨年度 1,027冊）605冊増。

録音 523人（昨年度 498人）25人の増。

デージー 941枚（昨年度 896枚）70枚の増であった。

点字使用者の閲覧が高齢化に伴い減ってきている。

音声版での利用は、視覚障害者用ポータブルレコーダー（デージー再生機）の申請や機種変更等、取扱い方法の説明での閲覧利用が増えていた。

閲覧室でのパソコンにて電子書籍やブレイルメモを利用したの閲覧を介し、サピエ図書館利用へと繋がっている他、スマートフォンの問い合わせも今年度は多かった。OSの変更でのパソコン操作やソフトまた、スマートフォンの個人対応は20名。電話でのレファレンスサービスは月50件、年間約600件の対応を行った。

4. 活発な広報活動を行い利用の拡大を図った

- (1) 「熊点だより」を、熊本県広報誌に寄稿し、新刊図書紹介や、団体情報等を掲載し、周知徹底に努めた。
- (2) 図書目録（点字版・墨字版・音声版）を製作し、利用者の要望に対応した。
- (3) 県内の、各視覚障がい者団体との連絡、協調を図り、各種会合や諸行事等へ出席して、広報に努める他、利用者の要望を聞き利用の拡大を図った。（八代市・水俣市・山鹿市・植木町）

5. ボランティアの育成と活動の促進を図った

- (1) 現在活動中のボランティアを対象に、点字図書館主催で、点字、朗読（音訳）研修会を、年数回開催し、正確な図書製作のための技術と資質の向上を図った。
- (2) ボランティア団体（グループ）の育成および助成を図った。
「熊本県点訳音訳友の会」他、県内各地域のボランティア団体等の諸行事に参加し、日頃の活動に感謝するとともに、育成と活動の促進を図った。
- (3) 音訳研修会において各デージーを製作する上で協力できるボランティアの研修会を行った。シネマデージー24名、研修会数5回、サピエ図書館登録審査合格は1タイトルである。マンガデージー7名、研修会数3回を開催し、完成したものは、30タイトルを製作

した。テキストデイジー25名、研修回数1回を行った。テキストデイジーは、製作実践、点字変換と、点訳にも活用できるよう努めた。また、今年度音訳校正研修会も実施した。

- (4) 点訳図書・録音図書校正員を、64名委嘱して、年1回の研修会を開催し、校正技術の向上を図るとともに、正確な図書製作に協力を得ている。点字校正員 32名。触読校正者 4名。録音校正員 25名

6、 点字印刷業務

- (1) 熊本県広報誌「県からのたより」を年6回、「熊本市政だより」を年12回、「八代市広報」を年12回、「わたしたちの福祉」を年2回、などの点字印刷業務を受託し、製版、印刷、発送を行った。熊本市議会だより（いちょう）年4回製作発送した。
- (2) 公共団体、民間団体、個人等の依頼により、点字印刷その他視覚障害者に必要と思われる資料の製作、印刷、発送に努めた。特に行政情報としては、「公務員受験広報」、各種選挙広報等の製作を受託し、製作、印刷、発送に努めた。また、受験に対しての助言・点字解読の業務も行った。
- (3) 図書目録、各種機関誌他、関係資料の製作、印刷、発送に努めた。

7、 録音製作業務

- (1) 録音図書の自館製作については、音訳ボランティアの協力を得て利用者の希望図書を優先して製作した。
- (2) 職員研修会等へ参加し、ボランティア対応に努め、時代のニーズに対応すべき技術の向上と、製作への研修を図った。具体的には、CD図書への編集作業、直接パソコンへの録音、CD図書の製作を図っている。
- (3) 熊本県広報誌録音版、「県からのたより」を年6回、熊本市広報「声の市政だより」を年12回、「宇土市広報」を年12回、「熊点だより、録音版」を年6回、製作、複写、発送している。熊本市議会だより年4回発送した。この他、八代市音訳グループ「萌えの会」山鹿市、合志市にも広報作成のための研修会に指導員の派遣を行った。また、天草市社協の要請によりデイジー研修会を開催した。
- (4) 地域福祉が叫ばれる中、地域で活動しているボランティアグループの協力を得て、広報製作や利用者のデジタル化への推進を広め、視覚障がい者の現状を踏まえ、各種学校・社協での取り組みに、視

覚障がい者の協力者及び点訳・音訳奉仕員の派遣を行った。熊本市・益城町・御船町・菊地市・水俣市など。

- (5) 公共団体、民間団体、個人等の依頼による音声情報製作を受託し、又、視覚障害者に必要と思われる資料の製作、複写に努めた。音声版への対応は、利用者の要望も多く確実な実績があがった。
- (6) その他、月刊、週刊テープ雑誌等の製作、複写、発送に努めた。日本障害者リハビリテーション協会から寄贈のデイジー図書（古いバージョン）の郵送ケースの整備を行った。

8. 関係資料の収集、調査

全国図書目録、他館の図書館だより、「日本の点字図書館」等の資料を収集、調査、研究し図書館サービスの充実に努めた。又、8月には現在確認できる約1,000人の方々へ「ふれあい感謝のつどい2015」の案内状を発送して、登録者所在の確認と利用の拡大を図った。

9. 職員研修会の開催、および参加

- (1) 必要に応じて随時、施設内職員研修会を開催し、職員間の連携を図るとともに、視覚障害者への更生援護の専門技術の向上と、盲人用具や情報機器業務の円滑、充実に努めた。
- (2) 九視情協主催による、研修会等への参加。
 - 4月 福岡県、九視情協館長会議（理事会）。（篠原）。
 - 9月 沖縄県、第29回九視情協大会、館長会議、職員研修会。（篠原、宮本、石坂）。
 - 2月 佐賀県立点字図書館、職員研修会（宮本）
- (3) 日盲社協、全視情協主催による職員研修会への参加
 - 8月 日盲社協点字指導員認定講習会 東京
 - 9月 第62回日盲社協社会福祉施設大会 福島県（篠原）
 - 10月 新潟にて、第41回全視情協大会、館長会議、職員研修会。（篠原、宮本、窪井）
 - 11月 日盲社協音訳指導員認定講習会（小山）
 - 12月 点字担当職員研修会 東京（石坂・山本）

10. その他の事業

- (1) ホームページを一新し、啓発活動及び情報開示に努めた。また、必要に応じて個別に、パソコン講座と情報機器講座を団体・個別と

随時開催した。

- (2) 「サピエ図書館」へ参加し、パソコン通信により、点字データの収集を図るとともに、印刷、製作、提供の充実を図った。又、利用者の個人加入の広報に努め今年度は新規加入者 12 名であった。現在 155 名が加入し、活用している。
- (3) 「読み代行サービス」、「熊日新聞拾い読み」事業を実施した。ファックスを利用し、電話で読みあげるサービスをし、28 件の依頼があった。
- (4) 音声訳グループ『さわらび』の協力を得て、図書館サービスの充実を図った。対面読書サービスを実施した。利用者延 14 名
- (5) 点訳・音訳ボランティアの協力を得て、プライベートサービスを実施し、利用者個人の希望により、点訳・録音図書を製作し要望に対応した。点字図書 15 タイトル 23 冊 2, 891 ページ、録音図書 デイジー (CD) 127 タイトル 587 : 14 時間であった。
- (6) 用具の斡旋と、生活用具等の地域格差無くするための研修会を実施。
厚生労働省と日本盲人会連合を招き、県内市町村福祉窓口担当者 (補装具・日常生活用具) と研修会を 8 月に行った。
点字用具一般 (点字器、点字用紙など)、各種白杖、音声時計、ブレードメモ、情報通信支援用具 (ソフトウェア) など利用者の要望に対応した。デイジー図書、録音再生機器取得を推進した。
- (7) 施設見学や、点字体験学習など小中校あわせて 4 校に出向き実施した。11 月に福祉センターと地域交流会として、社会へ点字制定記念日の啓発活動及び点字体験コーナーを開催した。体験者 10 名であった。また、盲学校教諭 2 名を実習研修に受け入れた。
- (8) 新規利用者の拡大を図るとともに、社会への啓発活動として次の事業を実施した。
 - ① ホームページを活用し新刊点字、録音、CD 図書の紹介をはじめ、催事情報、ボランティア活動、募集情報等を掲載した。
 - ② 10 月 18 日に、「ふれあい感謝のつどい 2015」式典及び利用者 とボランティアの交流会 (ゲーム、ミニライブ) を開催した。参加者約 180 名。
 - ③ ロービジョンを考える会に参加し、眼科医等との連携を図った。